

授業と実習の相乗効果を目指して

Aiming at synergistic effect of teaching and training

早 川 仁*

Hitoshi Hayakawa

We conducted questionnaire about lecture “Childcare content exercises” and “Childcare expression technologies” which the author is in charge after the kindergarten teaching practice, in order to investigate whether the students are tied to the practical ability of practical training. As a result, I could read the current situation that I can not say that they are necessarily acquired.

From this, in those lessons, we should consider concrete measures to acquire practical skills against the childcare site.

Also, differences were found between students and authors, for the content of classes required for actual training support.

The necessity of consider the cause of deviation and to realize a lesson that students can learn more ambitiously and effectively was suggested.

I、はじめに

現在の実習現場指導体制は、幼稚園教諭が平常保育の側ら実習学生指導も兼務している。このような状況下で、学生個々の性質や力量に照らした指導法を見出し実力伸長させることは至難であろう。結果として力が発揮出来ず、能力が開発されないまま終わってしまう実習生もあるのではないかと懸念される。従って養成校は学生が実習体験する直前までに基礎知識・技能・実践力・人間力を充分身に付け実習体験させる必要がある。しかしながら実習現場への学生巡回指導において、学生の実習内容に深みが無いばかりでなく、計画案が立てられていないケースもあるとの指摘も受けている。学生の実習体験談からは授業内容が力として身に付いていない実態も見えているし、実習で自分の能力を超えた課題を課せられ現場不信になってしまい、この職種を敬遠する学生も見られる。著者の担当授業「保育内容演習表現と創造Ⅱ」⁽¹⁾、「保育表現技術造形Ⅱ」は、それぞれ保育内容と表現技術を取り扱う授業科目であることから、保育現場に照らし合わせた実践力が実習活動と連携し、相乗効果が得られる授業内容となるよう再検討していく必要性が示唆された。

* 幼児教育学科

Ⅱ、担当授業について

1、「保育内容演習表現と創造Ⅱ」授業の目的と形態

対象は幼児教育学科二年生で、幼稚園教諭2種免許必修・保育士資格選択科目のため受講学生の多くが教育実習・保育実習を受講している。ここでは保育現場で表現活動をどのように捉え実践して行くか、技能、知識、それらの活動を支える基礎力修得を目的とした授業を行っている。又この授業は、腰山 豊⁽²⁾が実習成果を上げる為には学内協業体制の整備が不可欠であると言及しているように、音楽表現・言語表現・造形表現専門領域三名の協働で行われ、専門領域を越えて保育現場活動に沿った統合的表現授業の構築を目指して来た。しかし、各担当者の業務多忙もあり現在は一部オムニバス形式の授業になっている。

2、「保育表現技術造形Ⅱ」授業の目的と形態

対象は幼児教育学科二年生で、保育士資格選択科目である。受講学生は全体の3分の1程度だが、その多くが教育実習・保育実習も受講している。授業目的は学生自身が自由に創造する喜びや感動を深く体験しながら、幼稚園教育要領⁽³⁾・保育士保育指針⁽⁴⁾をもとにした表現教育の視座を持ち、実習において活用出来る造形技術・用具の知識・実習実践力(活動計画・環境設定・幼児とのコミュニケーション)など含めた能力醸成である。授業スタイルは、学ぶ側が主体となり、課題に対し個人、又は集団でどのように捉え表現して行くか。その表現意図や創作へのプロセスを大切にしている。

Ⅲ、授業内容の検討

1、検討方法

まず授業内容が幼稚園教育要領のねらいや目的に照らして整合性がとれているのか、シラバイをもとに精査する。次に、授業実態調査アンケートを実施し、実習活動と授業内容とが有効に連携されているのか。されていないければ、その要因を探る。又、学生側が実習において求めている知識や技能は何かを洗い出す試みを行う。

2、授業内容と幼稚園教育要領との整合性検証

①「幼稚園教育要領」平成29年告示版として改訂されたので以下に抜粋した資料を示す。

資料1 「幼稚園教育要領」表現—1「ねらい」、2「内容」、3「内容の取扱い」

- | |
|---|
| <p>1 ねらい (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p> <p>2 内 容 (1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。(3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。(4) 感じ</p> |
|---|

たこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。(6) 歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

- 3 内容の取扱い** (1) 豊かな感性は、身近な環境と充分に関わる中で美しいもの、優れたものの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。(2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしいさまざまな表現を楽しむことができるようにすること。(3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、道具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

これらを理解・習得するには、授業や実習を通して、保育現場に照らした「ねらいと内容」の理解を深め、表現技能と感性を体験的に磨いて行く必要がある。実習においては「内容の取扱い」にあるような幼児の表現をどのように捉え導き出すかの要点を踏まえ、具体的な活動展開が出来る力を醸成することが必要となる。

②「保育内容演習表現と創造Ⅱ」の授業シラバイと教育要領との整合性

資料2 平成29年度「保育内容演習表現と創造Ⅱ」授業シラバイ

第1回—(実習準備) DVD鑑賞、口頭によるパネルシアターの説明

目的—実習～実習反省保育教材の体験・探求—保育現場でのパネルシアターの活用目的と制作方法理解

第2回～第4回—(実習準備)・パネルシアター制作。材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける～制作開始

目的—保育教材の体験・探求—制作を通して色・形・素材にふれた表現研究をする・制作道具や素材の活用法を知る。

第5回—(実習準備) パネルシアター発表練習①実習実践に向けた・歌・語り・動作・手遊び等含めた練習

目的—保育教材の体験・探求—動きや言葉などで表現したり演じて遊んだりする・感動を他者と共有する。

第6回～第7回—(実習準備) パネルシアター発表① 各自制作及び発表練習した作品を、他の学生・教員の前で実習現場を想定し発表する。

目的—保育教材の体験・探求—動きや言葉などで表現したり演じて遊んだりする・感動を他者と共有する。

第8回—(実習準備) 粘土活動① 粘土に触れる・基本の形・技法を学ぶ。

目的—保育教材の体験・探求—感じたことや考えたことを自分なりに表現する。・素材に親しみ、道具や用具の知識と活用法を学ぶ。

第1回～第7回の授業は、実習における実践活動準備でパネルシアターの制作及び発表である。パネルシアターは児童文化材として広く保育現場で普及しており、形、色、手触り、動き、音、など表現構成要素が網羅され、素材、表現方法の研究、上演を通して、美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有できるものである。授業ではパネルシアター制作と発表を通してこれらの内容を体験してきた。第8回の授業は保育教材の体験として粘土活動を行った。道具や用具などについての知識を学び、幼児の発達に応じた粘土表現を理解し、表現する過程を大切にして自己表現を楽しむ体験をした。



写真1 パネルシアター発表授業



写真2 粘土活動授業

③「保育表現技術造形Ⅱ」の授業シラバイと教育要領との整合性

資料3 平成29年度「保育表現技術造形Ⅱ」授業内容シラバイ

第2回～第3回—壁面構成とは何かを学ぶ。グループで制作テーマを決め下絵制作・素材検討をする。

目的—生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする・かいたり、つくったりすることを楽しみ、飾ったりする。

第4回～第5回—①造形工作・絵画制作資料や先輩の資料から学ぶ。実習で実践したい造形活動内容を決定し素材・手順など教材準備研究する。実習教材研究 ②実際の制作を通して教材研究し並行して教育要領の表現内容を踏まえた計画を立てる。

第6回～第7回—模擬授業発表。教材研究と計画案に基づき実習生役と幼児役に分かれ実習現場を想定した模擬授業発表を行う。発表後ディスカッションを行い、課題点や参考点を学び合う。

第8回—(実習反省) 実習実践報告書の記載、及び授業(造形Ⅱ・表現Ⅱ)に関するアンケート

調査実施。計画と実習実践での齟齬は何か、知識・技能の未熟点・教育要領の表現内容を実習体験を通して理解することができたか等を確認する。

* 自宅課題 折り紙構成・アニメキャラクター全身描画



写真3 壁面構成作品



写真4
壁面構成制作の様子



写真5 模擬授業発表1



写真6 模擬授業発表2

第2回～第3回の壁面構成は自ら季節・時候に合った行事等調べさせることからテーマ設定や素材選択、実際の展示方法を検討させ保育現場で実践活用できるよう制作経験させることを心掛けた。又、鑑賞を通して互いの作品から学び合い、生活環境の中で飾ることの楽しさ等体験している。第4回～第8回は実習実践を前提とした活動準備・研究授業である。教育要領「内容の取扱い」に沿って幼児表現をどのように捉え導き出すかといった観点も踏まえ、実習計画案(幼稚園実習造形活動計画案+実践レポート)を作成する。

資料4「幼稚園実習造形活動計画案+実践レポート」の記述項目

1. 環境構成(幼児、先生の活動位置・机、椅子、用具などの配置を図解してください)
2. 計画案の活動テーマと目的
3. 活動の具体的内容 ア) 準備 イ) 具体的な(製作)手順 ウ) 導入計画 エ) 活動中の幼児とのかかわりや指導 オ) 片付け(幼児への指導・先生としての片付け作業) カ) 制作物(作品)の展示・鑑賞方法 キ) 評価の方法
4. 感想ア) 自分の目的が達成できた点 イ) 担当先生の指導で感心した点、疑問に感じた点

第6、7回では実習現場を想定して部分実習模擬授業を行う。内容は、前回までに研究してきた教材や計画案に基づいて、実践発表するものである。このとき数名の協力者は発表者の設定に沿った幼児役となり、その年齢、天候、活動環境などから行動を予測して行動する。発表後は互いに学びたい点や課題が残る点を幼児役のメンバー及び参観学生が評価し、現時点の課題に気づき対応方法を共有して解決策を話し合う。第8回、実習後に実習計画案下段に実践報告を併記し、計画と実践の乖離を検証させ、各自課題発見に繋げていく授業内容としている。

④検証結果

両授業の内容は共にシラバイ構成上においては、教育要領表現の「目的」・「内容」・「内容の

取扱い」との整合性を保っていると思われる。しかし授業内容として以下の課題点が見えてきたので今後検討してみたい。「造形Ⅱ」実習計画案作成において模擬授業による討論を基に、当初の計画案を更に練り上げ修正記録していく必要がある。又、実習体験後は実践レポートの記録で終わらず、実習体験で見えた課題点の情報交換を行い、対応策を討論する必要がある。

3、授業実態調査アンケートによる授業内容の検討

①授業実態調査アンケートのねらいと目的

授業内容と実習活動が有効に連携されているか・実習する上で教育要領―表現の内容の理解が深まっているか・実習する上で実技技能に関し力量不足のものは何か・実習前後で授業成果は上がっているか・学生が実習事前に必要としている学修は何か等の観点から調査した。

②アンケート対象の授業

「保育内容表現と創造Ⅱ」からC, 「パネルシアター」

「保育表現技術造形Ⅱ」からA, 「お気に入りの場所を描く」B, 「壁面構成」D, 「実習教材研究」E, 「折り紙構成・アニメキャラクター全身描画」(自宅制作課題)。

③アンケート質問項目

資料5 実習実態調査アンケート

実習前までの授業内容についてお尋ねします。下記の設問で該当する番号を○で囲んで下さい。

評価基準<1 大いにある、2 多少ある、3 あまり無い、4 ほとんど無い>

質問1 下記の授業内容は実習に役立ちましたか。評価の理由もお答えください。

・授業B「壁面構成」 1・2・3・4

理由(複数回答可) ア、実習に直接関連している内容だから。

イ、将来的に保育現場で役立つ内容と思えるから。

ウ、実習に直接関連していない内容だから。

エ、その他の理由()

以下・授業C「パネルシアター」・授業D「実習教材研究」・自宅課題E「(折り紙・アニメキャラクター全身描画)」についても同様の質問を行った。

質問2 十分な事前準備をして実習に臨めましたか。 1・2・3・4

・1、2を回答した人にお尋ねします。具体的にどのような準備をしましたか。

()

・3・4を回答した人にお尋ねします。実際に実習してみてどのような準備が必要としましたか。()

質問3 教育実習を終えて特に指導して欲しいと思った造形関連能力は何ですか。自由に選んで記号を○で囲んで下さい(複数回答可)

・ア＝描画力 ・イ＝工作力 ・ウ＝装飾力

・エ＝道具や素材知識と使いこなし・オ＝創作アイディア力

授業と実習の相乗効果を目指して

- ・カ＝造形活動の保育計画力 ・キ＝幼児の造形活動に関する発達理解
- ・ク＝特に無い

㊦質問１－「授業内容は実習に役立ちましたか」についての結果

授業B「壁面構成」

評価基準＜1 大いにある、2 多少ある、3 あまり無い、4 ほとんど無い＞

H27 ・ 1 (25名) ・ 2 (10名) ・ 3 (1名) ・ 4 (1名) ・ 無記入 (1名)

H28 ・ 1 (32名) ・ 2 (7名) ・ 3 (0名) ・ 4 (1名) ・ 無記入 (6名)

H27, 28年度合計 (84名中)

・ 1 = 57名 (68%) ・ 2 = 17名 (20%) ・ 3 = 1名 (1.2%)

・ 4 = 2名 (2.4%) ・ 無記入 = 7名 (8.4%)

理由 (複数回答可)

H27

H28

ア、実習に直接関連している内容だから。 (17名) (11名)

イ、将来的に保育現場で役立つ内容と思えるから。 (20名) (37名)

ウ、実習に直接関連していない内容だから。 (1名) (1名)

エ、その他の理由 (2名) (2名)

H27, 28年度合計 (91名中—複数回答含む)

・ ア = 28名 (30%) ・ イ = 57名 (63%) ・ ウ = 2名 (2%)

・ エ = 4名 (5%) ・ 無記入 = 0名 (0%)

授業C「パネルシアター」

評価基準＜1 大いにある、2 多少ある、3 あまり無い、4 ほとんど無い＞

H27 ・ 1 (28名) ・ 2 (8名) ・ 3 (0名) ・ 4 (1名) ・ 無記入 (1名)

H28 ・ 1 (36名) ・ 2 (9名) ・ 3 (0名) ・ 4 (0名) ・ 無記入 (1名)

H27, 28年度合計 (84名中)

・ 1 = 64名 (76.2%) ・ 2 = 17名 (20.2%) ・ 3 = 0名 (0%)

・ 4 = 1名 (1.2%) ・ 無記入 = 2名 (2.4%)

理由 (複数回答可)

H27

H28

ア、実習に直接関連している内容だから。 (30名) (26名)

イ、将来的に保育現場で役立つ内容と思えるから。 (6名) (21名)

ウ、実習に直接関連していない内容だから。 (1名) (2名)

エ、その他の理由 (2名) (1名)

H27, 28年度合計 (89名中—複数回答含む)

・ ア = 56名 (63%) ・ イ = 27名 (30.2%) ・ ウ = 3名 (3.4%)

・エ＝3名(3.4%) ・無記入＝0名(0%)

授業D、「実習教材研究」

H27 ・1(29名) ・2(7名) ・3(1名) ・4(0名) ・無記入(1名)

H28 ・1(38名) ・2(7名) ・3(1名) ・4(0名) ・無記入(0名)

H27, 28年度合計(84名中)

・1＝67名(80%) ・2＝14名(17%) ・3＝2名(2%)

・4＝0名(0%) ・無記入＝1名(1%)

理由(複数回答可)

H27

H28

ア、実習に直接関連している内容だから。 (32名)

(29名)

イ、将来的に保育現場で役立つ内容と思えるから。 (5名)

(17名)

ウ、実習に直接関連していない内容だから。 (1名)

(3名)

エ、その他の理由 (2名)

(0名)

H27, 28年度合計(89名中—複数回答含む)

・ア＝61名(69%) ・イ＝22名(24%) ・ウ＝4名(4.5%)

・エ＝2名(2.5%) ・無記入＝0名(0%)

授業E、「折り紙・アニメキャラクター全身描画」(自宅課題)

H27 ・1(24名) ・2(10名) ・3(2名) ・4(0名) ・無記入(2名)

H28 ・1(22名) ・2(18名) ・3(4名) ・4(1名) ・無記入(1名)

H27, 28年度合計(84名中)

・1＝46名(55%) ・2＝28名(33.1%) ・3＝6名(7.1%)

・4＝1名(1.2%) ・無記入＝3名(3.6%)

理由(複数回答可)

H27

H28

ア、実習に直接関連している内容だから。 (19名)

(19名)

イ、将来的に保育現場で役立つ内容と思えるから。 (16名)

(15名)

ウ、実習に直接関連していない内容だから。 (1名)

(2名)

エ、その他の理由 (2名)

(3名)

・無記入(7名)

H27, 28年度合計(84名中)

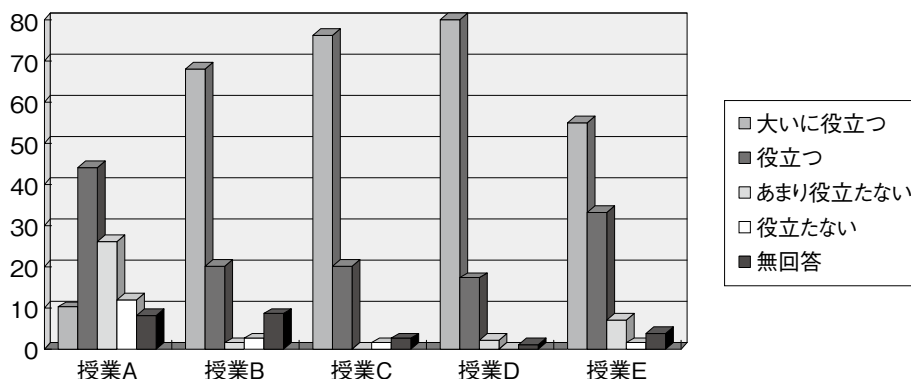
・ア＝38名(45%) ・イ＝31名(37%) ・ウ＝3名(3.6%)

・エ＝5名(6%) ・無記入＝7名(8.4%)

④質問1—「授業内容は実習に役立ちましたか」についての<考察>

授業B「壁面構成」 アンケート結果では、役立つ・将来役立つの回答が多かった。理由としては実習園で壁面制作の課題を出されることが多いことも挙げられるが、保育現場では必ず

実習アンケート質問1のグラフ



*Aの授業は対象外だが、実習関連授業と比較するため、質問1のグラフにのみ記した。

と言ってよいほど行事関連の装飾物をはじめとして室内や通路に壁面構成装飾を施していることから、現場で必要になる活動と考えていることが予想された。尚、授業Eでは自宅課題として「折り紙」制作を取り入れているが、この授業と連動させ壁面構成の構成力や作品アイディア力を高めるために折り紙を用いたミニ壁面構成作品を制作させている。

授業C「パネルシアター」 アンケート結果から、役立つ・将来役立つの回答が大変多かった。この理由の1つは実習で実践することを課題提示したことが挙げられる。昨今の保育現場はパネルシアター発表教材が揃っている園が増え、実習で演じることを求められることもあるようだ。授業のテクニカルな指導ポイントは、パネル画制作において輪郭の強弱表現・配色による絵の表情変化・画面構図による意味の変化など、演技においては語り言葉・動作テンポ・発声と表情・音楽の側面からはリズム・メロディーの良さや正確性等で多岐に亘る表現力の指導が必要となり、それらの要素は絡み合い統合表現として学ぶ授業課題であることが分かる。又、演じ手と鑑賞者が発表を通し、互いの心中を繋げて行く活動で、保育において大変有意義な活動でもある。授業では作品発表で良い評価を得ながら結局実習実践して来なかった学生も少なからず見られた。個別に理由を確認していった所、実習園の都合もあるが、実践する自信が無かったとの返答も多く聞かれた。自信をつけて実習に向かわせることも指導上大切なポイントであることが見えてきた。

授業D「実習教材研究」 アンケート結果から、役立つ・将来役立つの回答が一番多かった授業である。理由としては実習に直接関連する内容、模擬授業であるからであろう。授業構成は、㉗幼稚園実習造形活動計画案→④教材研究→㉗模擬授業→㉗実践レポートの作成としている。㉗「計画案」の内容から、実習活動がどの程度認識出来ているか、不備な点は何処かなどを洗い出してみた。①表現技能の不備＝技量・技法知識など、②保育知識の不備＝幼児

の発達理解・教育要領における表現の目的や内容など③現場情報の不備＝担当クラス幼児の様子④その他＝実習の準備不足・自信の無さ等が見られた。④教材研究では、保育雑誌等の参考本で制作手順を覚えることで、研究出来たと思ひ込む学生が多かった。ここで重要なことは参考資料本で制作手順を覚えることばかりではなく、例え資料に倣った活動内容であっても、適切な素材や活用技法を自分なりに咀嚼して、活動展開に必要な準備・環境構成・活動そのものの面白さを体験的に味わっておくことである。材料の調達・道具の準備も模擬授業の中の大切な学びの課題である。実際の実習活動において自ら素材を購入し又、収集呼び掛けなど必要となることがある。どの材料が何処で調達できるか。数量や予算はいくら程度か。金額や数量によっては材料確保手段や活動内容の変更も出てくることもある。同じ素材・用具でも種類が豊富にある場合には、活動に適した素材・用具を選択できるか否かで結果が大いに変わって来るものである。材料の硬さ・大きさ・素材により着色出来るか否か、用具は幼児の手の形や握力に合ったもの、安全性への考慮など、これらの研究だけでも際限ない。さらに幼児の活動に落とし込む場合は、発達年齢に沿って活動難所や興味の広がるポイントも検討し研究を深めることが大切で、これは⑤の模擬授業に繋がる部分でもある。⑤模擬授業では計画活動を現場に下す課題の多さに気付くことが出来ていた。教材研究や活動手順が不備な場合は勿論のこと、それらを十分検討していても実際の保育活動には進展して行かない。幼児をしっかり観察・理解することの必要性を、模擬的であれ実践行動を通して認識出来るようである。互いの発表を通して個人では気付けなかった点、活動アイディアなど有効な情報として共有し、計画案を修正したり活動に追加して盛り込んだりしている事や、教諭役と幼児役とをロールプレイし模擬活動することで双方の立場視点で計画案が見直されて来ていることも分かった。この授業を通して自分が「解らないこと・出来ていないこと」を確認しておくことは実習目標を立てる上で極めて重要なこととなる。

授業E「折り紙・アニメキャラクター全身描画」(自宅課題) アンケート結果から、役立つ・将来役立つの回答が多かった授業である。1年次に体験した観察実習では、幼児が折り紙を楽しんでいた、好きなアニメキャラクターを描いて欲しいとせがまれたりした経験が多かったことが理由として挙げられていた。このように幼児の興味関心に応えられる技能を持っていることは、短期間実習で幼児と信頼関係を築くのに大いに貢献したようである。この課題意図は、折り紙や描画の技術向上だけではなく、これを幼児とのコミュニケーションツールと捉え、技量を身に付けることとした。描画課題に苦手意識を持ち易い⁽⁵⁾学生が多いと聞くが、そのような学生でも積極的に取り組めるようになり、実習後はその点で、成果を上げて来たとの声も多く聞かれた。

⑦質問2「十分な事前準備をして実習に臨めましたか」についての結果

十分な事前準備をして実習に臨めましたか

評価基準< 1 大いにある、2 多少ある、3 あまり無い、4 ほとんど無い>

平成27 ・ 1 (9 名) ・ 2 (21 名) ・ 3 (5 名) ・ 4 (0 名) ・ 無記入 (3 名)

平成28 ・ 1 (15 名) ・ 2 (19 名) ・ 3 (10 名) ・ 4 (1 名) ・ 無記入 (1 名)

H27, 28 年度合計 (84 名中)

・ 1 = 24 名 (29%) ・ 2 = 40 名 (48%) ・ 3 = 15 名 (18%)

・ 4 = 1 名 (1%) ・ 無記入 = 4 名 (4%)

実習事前準備したと見做される 1・2 番の回答割合 77%。準備しなかったと見做される 3・4 番の回答割合 19%。

1、2 を回答した人にお尋ねします。具体的にどのような準備をしましたか。*複数回答可

A, 計画案に関するもの)・制作活動の流れ確認・製作手順説明の台本

B, 教材作製に関するもの)・ペープサート・パネルシアター・手袋シアター

・プレゼント・部分実習の工作物・工作、

これ等の材料、手本準備、制作練習

3・4 を回答した人にお尋ねします。実際に実習してみてどのような準備が必要と思いましたか。*記述式

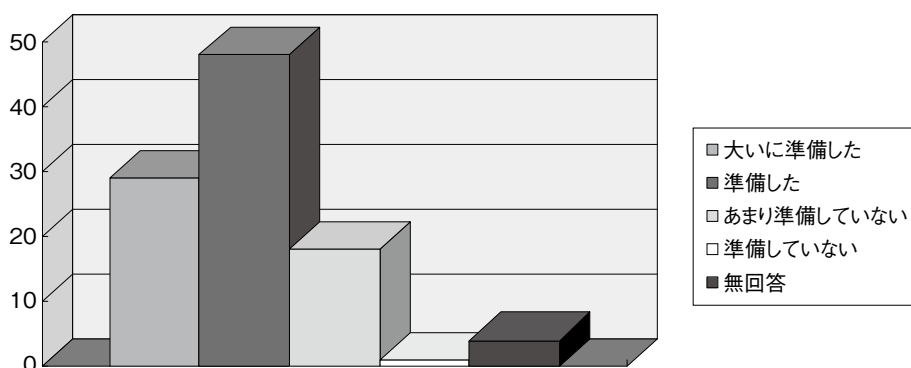
A, 計画案に関するもの)・対象年齢やクラス状況に応じた指導案計画

・幼児に適した説明の仕方や演技方の練習など。

B, 教材作製に関するもの)・早めの教材準備・材料を多めに準備する

・活動に適した素材選択。

アンケート質問2のグラフ



*受講学生の中には実習しない学生もあり、4 番の全く準備していない 1%と、無記入 4%に含まれている。

①「十分な事前準備をして実習に臨めましたか」に関する考察

準備しなかったと見做される 3・4 番を併せた回答者の割合は 19%で予想外に多いことが見

えてきた。このアンケートでは、筆者の担当科目に関する表現活動が準備不足だったのか、実習に関する全ての点が準備不足だったのかが見えてこない。モンテッソーリ教育⁽⁶⁾など実習園の教育方針や、大きな園行事の準備期間と実習が被っている場合などには、授業で準備した創作活動を実習で実施させてもらえない場合もある。何れにしても準備内容を取り入れた授業を実施しているにも拘らず2割弱の学生が準備不足を認識したまま実習に入っていることは大きな課題である。ただし準備不足と回答した学生の中には準備していながら自信が持てずにそのように回答してしまった可能性もあるし、準備したと回答した側にもその反対のことが言える。この点ももう少し正確にデータを取る必要がある。

㊦「具体的にどのような準備をしましたか」・「実際に実習してみてどのような準備が必要とありましたか」に関する考察

平成27、28年度共に概ね同様の記述内容であった。このことから年度や学生の個性、能力差で大きく準備すべきことが違って来るものではないことが見て取れる。準備内容は大別するとA、活動計画案に関するものB、教材作製に関するものと二分された。学生の中にはA、B、どちらか一方の準備に偏ってしまい、時間をかけて準備した積りでいても、それが実習現場では充実した実践に結びつかず、挫折感を味わって来るケースも見られる。このことから計画案と教材研究を連動させた準備指導が必要であることが分かった。次に回答1、2番の内容は実習事前計画であり3、4番は実習事後の反省項目となっているが、この計画と反省を比較してみると、1、2番(計画段階)の回答では、「部分実習の工作物準備」や「指導案の作成」と言った大まかな解答となっているが、3、4番(反省段階)の回答では「材料を多めに準備しておく」、「活動に適した素材選択」、「対象年齢やクラス状況に応じた事前計画準備」、「幼児に適した説明の仕方」など、現場に則したより具体的な解答が多く見られる。このことから実習を経て幼児や現場環境に照らし合わせ、授業内容を深化させることが出来ていることが分かった。

㊦質問3「実習を終えて、特に指導して欲しいと思った造形関連能力」についての結果

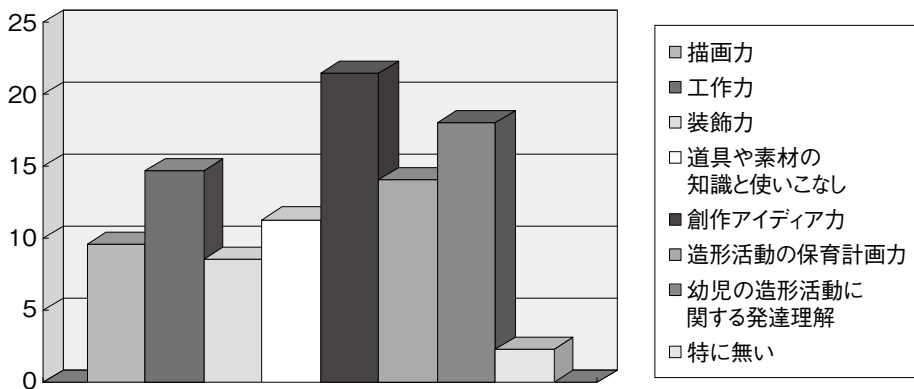
- ・ア＝描画力(9名)(8名) ・イ＝工作力(14名)(12名)
- ・ウ＝装飾力(7名)(8名)
- ・エ＝道具や素材の知識と使いこなし(11名)(9名)
- ・オ＝創作アイディア力(14名)(24名)
- ・カ＝造形活動の保育計画力(14名)(11名)
- ・キ＝幼児の造形活動に関する発達理解(17名)(15名)
- ・ク＝特に無い(1名)(3名)

H27、28年度合計177(複数回答可含む)

- ・ア＝描画力(9.6%) ・イ＝工作力(14.7%)
- ・ウ＝装飾力(8.5%)

- ・エ＝道具や素材の知識と使いこなし (11.3%)
- ・オ＝創作アイディア力 (21.5%)
- ・カ＝造形活動の保育計画力 (14.1%)
- ・キ＝幼児の造形活動に関する発達理解 (18%)
- ・ク＝特に無い (2.3%)・無記入＝(0%)

アンケート質問3のグラフ



①質問3「実習を終えて、特に指導して欲しいと思った造形関連能力」についての考察
設問項目(ア)～(キ)を①～③のように分類し検討した。

- ①創作技能(ア、描画力・イ、工作力・ウ、装飾力) (32.8%)
- ②創作知識(エ、道具や素材の知識と使いこなし・オ、創作アイディア力) (32.8%)
- ③実践的保育能力(カ、活動計画力・キ、創作に関する発達理解) (32.1%)

3つの分類項目には大きな偏りがなく共に3割程度の結果となった。このことから実習を通して、それぞれの項目に関して欠けることなく必要であることを理解していることが分かった。

①創作技能に関する考察

「工作力」を身に付けたい要望が描画力や装飾力などよりも高ポイントとなった。その理由の1つとして、工作には制作手順があり、システマチックに指導案を立て易く、部分実習などで取り上げ易いことが挙げられる⁽⁷⁾。

②創作知識に関する考察

「創作アイディア力」が特に高ポイントとなった。手間暇のかかる創作活動で、ワンパターンに陥らないように発想を常に変えていくことは頭の痛い課題である。創作は幼児の成長を促す重要な活動であることから保育現場では、保育目標と連動して素早く質の高い創作アイディアを閃かせることが求められていると考えられる。この内容に関しては例年、著者が一部担当

している教員免許状更新講習造形領域講座⁽⁸⁾においても現職教員から希望が多い項目となっている。大変忙しい保育現場や実習においては保育雑誌を利用し、時間を掛けず見栄えの良い確実に出来上がる教材(月々の壁面構成デザイン画や工作あそびの作り方など)を活用する風潮も見られる。現場教諭自身が保育環境を創作する為、例えば壁面ディスプレイ・行事飾りなどで利用するのであれば利用価値はあるであろうが、幼児の創作活動にこれをあてがうような姿勢が見られるのであれば、「幼稚園教育要領」に示されている表現教育本来の目的と、方向性が乖離して行く懸念がある。安易な実用主義に陥ることの無いよう、表現におけるねらいを明示し、幼児の成長にとって個々の創作過程、その試行錯誤や、物とふれあう感性のきらめき、生きる力の必要性において自ら獲得して行く表現技術、成し遂げたときの感動と充実感、それらの経験が大切であることを認識出来るよう指導して行きたい。

③実践的保育能力に関する考察

「活動計画力」・「創作に関する発達理解」、共に高いポイントであった。実習を通して、計画の重要性や、幼児の発達理解が不可欠であることが理解出来ているとを示している。又、ポイントが高い要因として、幼児の創作発達過程について学べていないことの不安や不満の表れとも見て取れる。「表現と創造Ⅱ」・「造形Ⅱ」は実践・実技系の授業であることから、断片的に学べる内容はあっても、系統的な知識としては身につけていない。これは学科協働課題として抜け落ちの無いカリキュラム構成を組んで対応していくのも問題解決の方法となろう。

Ⅳ、終わりに

授業が実習現場で生かされ有効な成果を上げる為には実習と授業内容とが効果的に関連付けられることが重要な要素であると推察される。これを実現するためには実習現場と授業担当者間の協業体制も大いに有効であると考えられる。実際の幼児の行動は、学校の授業で学ぶ抽象的な知識だけでは気付きにくいことも多く又、基礎技能だけで対応出来るものでもない。幼児の総合的・流動的・直観的な活動を理解する為には、授業の学びと関連付けられた実習経験が必要である。従って実習現場と授業とが情報を共有し、一連の歯車として有機的に構造化してゆく必要があると考える。具体的には、養成校側から実習園へ実習生情報(個々の学生の能力・社会性・学力・実践力など)の提供を行い、本人の能力別に合わせた実習プログラムを組み、目標到達点、課題点を確認し合い実践可能な指導内容とする取り組みが必要である。実習で充実した成果を上げることが出来れば、ここで培った保育実践力と体験を通じた知識は、自信となり、学修意欲も大いに喚起される可能性があるだろう。又、実習で挫折感を味わい、保育の職場に不信感を持つ実習生も大いに減少するであろう。幼稚園教諭や保育士となる上で、自分なりの保育観、保育スタイル構築への手掛かりともなるであろう。意欲と力量を兼ね備えた学生が増えれば、学生・実習園・養成校の三者が互いに信頼関係を深め合い、地域の幼児教育環境充

実は大いに貢献することが出来ると思われるのである。実習と授業との相乗効果を目指して研究することは、授業者・学生・保育現場の教職員三者それぞれの立場や考え方、現状の相互理解が必要である。実習現場と連携して相乗効果が得られる授業を再検討していくことは安易に相手の立場やロジックに迎合することではなくそれぞれの立場で理想を明確に持ち乍ら他者の考えも理解し、新たに止揚的発想で保育を整えることでもある。

註および引用文献・参考文献

- (1) 「保育内容演習表現と創造Ⅱ」担当者・三瓶玲子(郡山女子大短大部幼児教育学科)・庄司康生(埼玉大学)・早川仁(郡山女子大短大部幼児教育学科) この授業について著者が直接担当していないオムニバス形式の授業内容については今回授業検討の対象外とした。
- (2) 腰山 豊「保育実践力を高める」短大授業の改善と実技・演習、第9章教育・保育実習の充実をめざす関連科目の授業実践事例P213(2006)
- (3) 幼稚園教育要領<平成29年告示>、P20、フレーベル館、2017. 第2章ねらい及び内容―表現
- (4) 保育所保育指針<平成29年告示>、P21、P29フレーベル館、2017. 第2章保育の内容
- (5) 「図工」「美術」が苦手な理由は「上手に絵が描けない」「手先が不器用」benesse.jp/kyouiku/201202/20120209-1.htm
- (6) 相良敦子。モンテッソーリ教育お母さんの「敏感期」―モンテッソーリ教育は子を育てる、親を育てる2007
- (7) 松下明生 現職の保育者を対象とした「保育者に必要な造形能力意識調査」名古屋柳城短期大学研究紀要第38号(2016年度) 保育者に必要な造形能力についての研究P95～96.でも同じような傾向が見られている。
- (8) 平成28年度郡山女子大学短期大学部、教員免許状更新講習、造形領域講座*・選択領域④幼Ⅲ現代の子どもの造形表現と音楽表現アンケート

